

経営比較分析表（令和4年度決算）

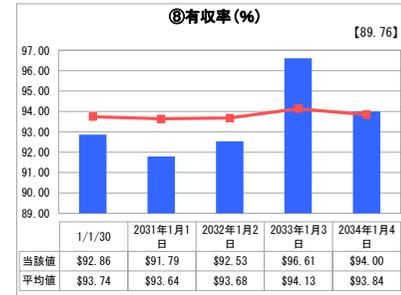
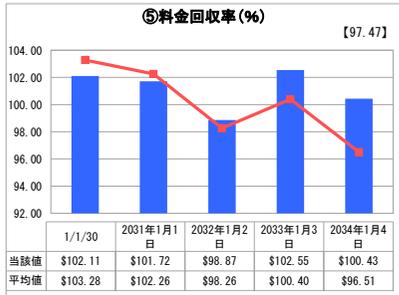
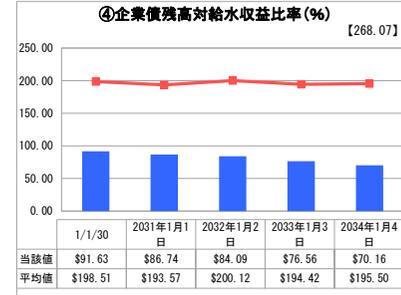
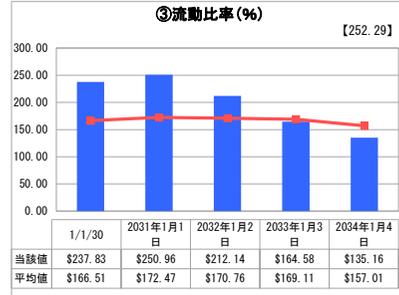
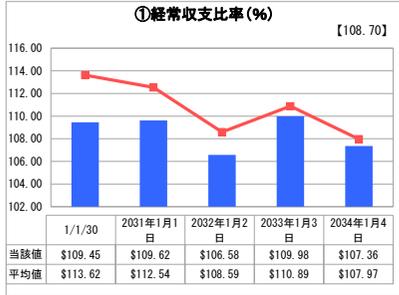
兵庫県 神戸市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	政令市等	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	88.27	99.85	2,563	

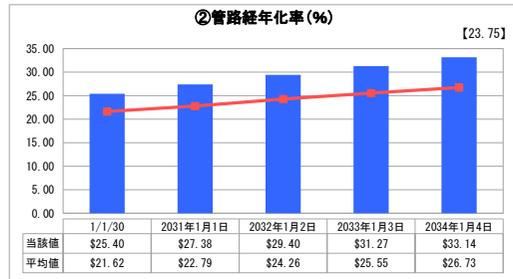
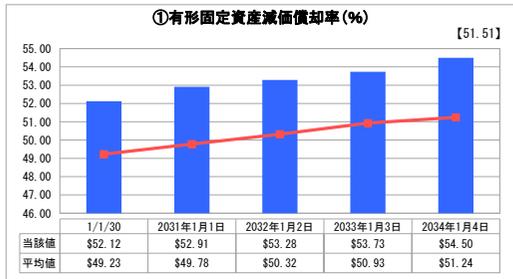
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,510,917	557.05	2,712.35
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
1,499,421	287.64	5,212.84

グラフ凡例
■ 当該団体の値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率
有収水量の増加に伴う給水収益の増加があったものの、物価高騰等による費用の増加により前年度と比べ低下しているが、健全経営の水準とされる100%は上回っている。

② 累積欠損金比率
発生していない

③ 流動比率
流動比率は100%を超えているため、現状では短期的な支払能力に問題はないが、減少傾向にあるため改善を図る必要がある。

④ 企業債残高対給水収益比率
他の財源を活用し、企業債の借入れを行わなかったことにより値が減少している。

⑤ 料金回収率
昨年度と比べ低下しているが、事業に必要な費用を給水収益で賄えている状況とされる100%は上回っている。

⑥ 給水原価
給水原価は類似団体との比較では、低い水準となっているが、将来の給水人口の減少や、更新投資の増加による減価償却費の増加が見込まれることから、引き続き経営改革に努める必要がある。

⑦ 施設利用率
類似団体と比べ高い水準となっており、効率的に施設を利用している。

⑧ 有収率
昨年度と比べ減少しているものの、過年度と比較すると高水準である。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率、② 管路経年化率
類似団体と比較して高い水準である。これは施設の延命化・長寿命化を図り、投資の抑制を行ってきたためである。

③ 管路更新率
工事規模が大きく更新率が上がりにくい大口径管路や配水池根本の管路などの更新に対して重点的に投資を行ってきたため、低い水準となっている。今後、高度経済成長期に布設した大量の配水管が更新時期を迎えるに当たり、配水管の更新を計画的に実施していく。

全体総括

給水収益の減少や経年化施設の大量更新など厳しい状況が見込まれるが、可能な限りの経営改善等を進め、効率的な事業運営に努める。

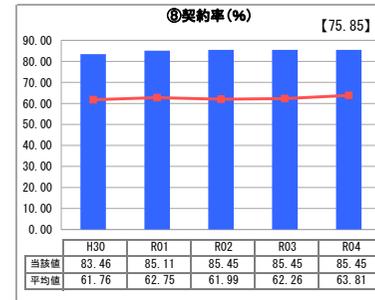
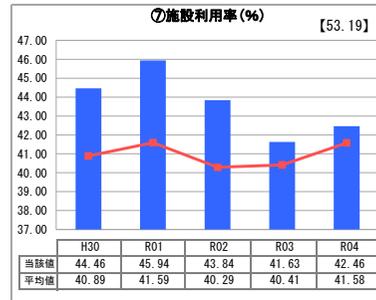
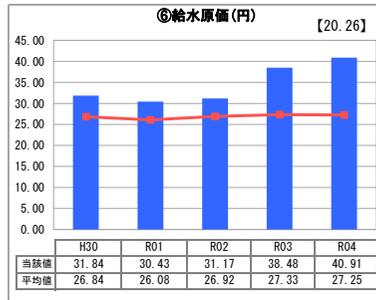
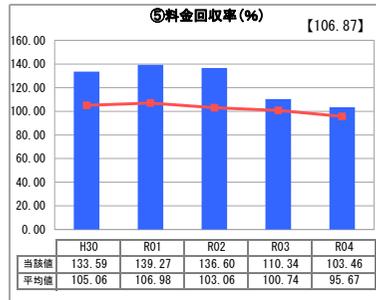
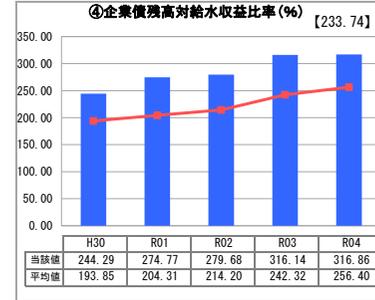
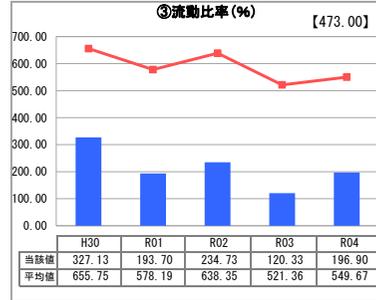
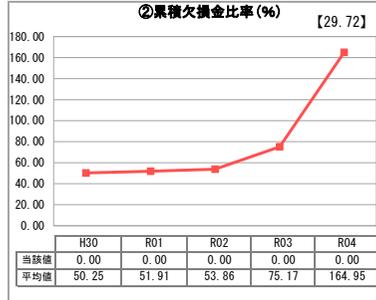
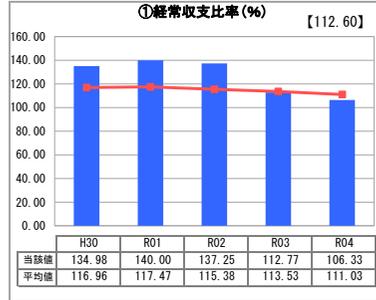
経営比較分析表／団体全体（令和4年度決算）

兵庫県 神戸市
【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	106,000	中規模	1	45,007
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	68.9	73	90,576	自治体職員	

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

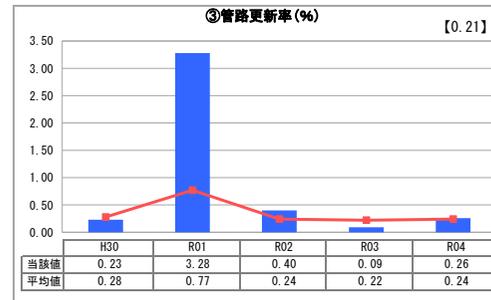
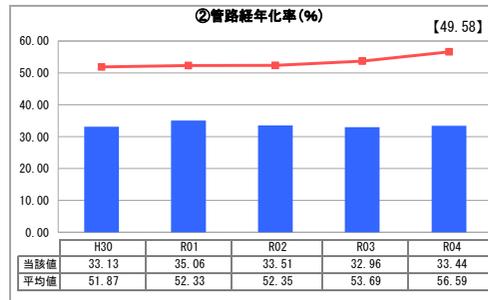
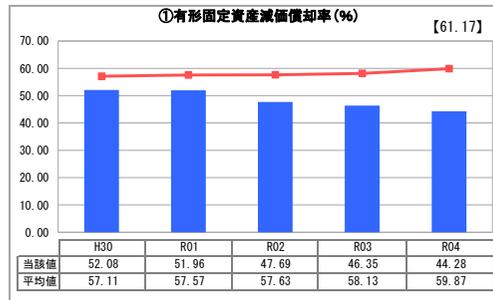
1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
減価償却費等の費用の増加により低下しているものの、健全経営の水準とされる100%は上回っている。
- ② 累積欠損比率
発生していない。
- ③ 流動比率
100%を超えているため、現状では短期的な支払能力に問題はない。
- ④ 企業債残高対給水収益比率
令和元年度以降新規投資の増加に対応するため企業債を発行しており値が上昇している。
- ⑤ 料金回収率
料金回収率は100%を超えており、類似団体の平均値と比較しても高い値となっている。
- ⑥ 給水原価
給水原価は減価償却費等の費用の増加により値が上昇している。
- ⑦ 施設利用率
過去と比較して低下しているものの、類似団体との比較では高い水準である。
- ⑧ 契約率
安定して高水準を維持できている。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率、②管路経年化率
計画的な更新に努めてきたことから法定耐用年数を上回る資産が少ないため、類似団体と比較して低水準である。
- ③ 管路更新率
類似団体と同程度の水準である。今後、昭和30～40年代に整備した管路など、大量の工業用水道施設が更新時期を迎えることから、現在の経営状況を維持しつつ、引き続き計画的な施設更新を行っていく。

2. 老朽化の状況



全体総括

水需要の合理化や経年化施設の更新を見据えつつ、引き続き、持続的・効率的な安定給水と経営基盤の強化に努めていく。